人生の大きな峠を、また一つ、自分はうしろにした。

十年一昔だといふ。すると、自分の生れたことはもう昔の、むかしの、むかしの、そのまた昔の事である。いつのまにそんなにすぎさつてしまつたのか。まだ、すべてが昨日今日のやうにばかりおもはれてゐるのに、一生とは、なんな短いものだらうか。これでよいのか。だが、~~[illegible]~~

~~[illegible]~~それだから、いのちは貴いの~~[illegible]~~であらう。

そこに永遠を思慕するものの寂しさがある。

十ノ廿 松屋製
(SM印 C-1)

まことに、まことに、それはいたずらごとではない。

むかしより、ふでをもてあそぶ人多くは、花に耽りて實をそこなひ、實をこのみて風流をわする。

これは芭蕉が感慨の一つであるが、ほんとにそのとほりだ。

自分にも~~いま~~此の境になって、~~いまはじめて~~いまさらのように、そうしたことが沁々思ひあはされる。齢の効かもしれない。

~~詩をつくるより田を作れ、といふ諺がある~~

諺にいふ。詩をつくるより田を作れ。それでは~~いくたび自分も~~どんなにたびたびくやしくも赤恥を~~か~~搔かせられたか解らない。

いま考へてみると、その頃の自分は、そういはれてもどうしようもないほど所謂詩らしい詩ばかり~~かま~~書き綴つてゐた。~~御耕作~~鍬で御くことをわすれてゐた。ただ「畦」がくると、自分は高

といふ諺 [illegible] そんなにか 何処でか

の念頭~~[illegible]~~の意いふはからである。

[illegible]いわいろに座つてみよう

十ノ廿 松屋製

(SM印 C-1)